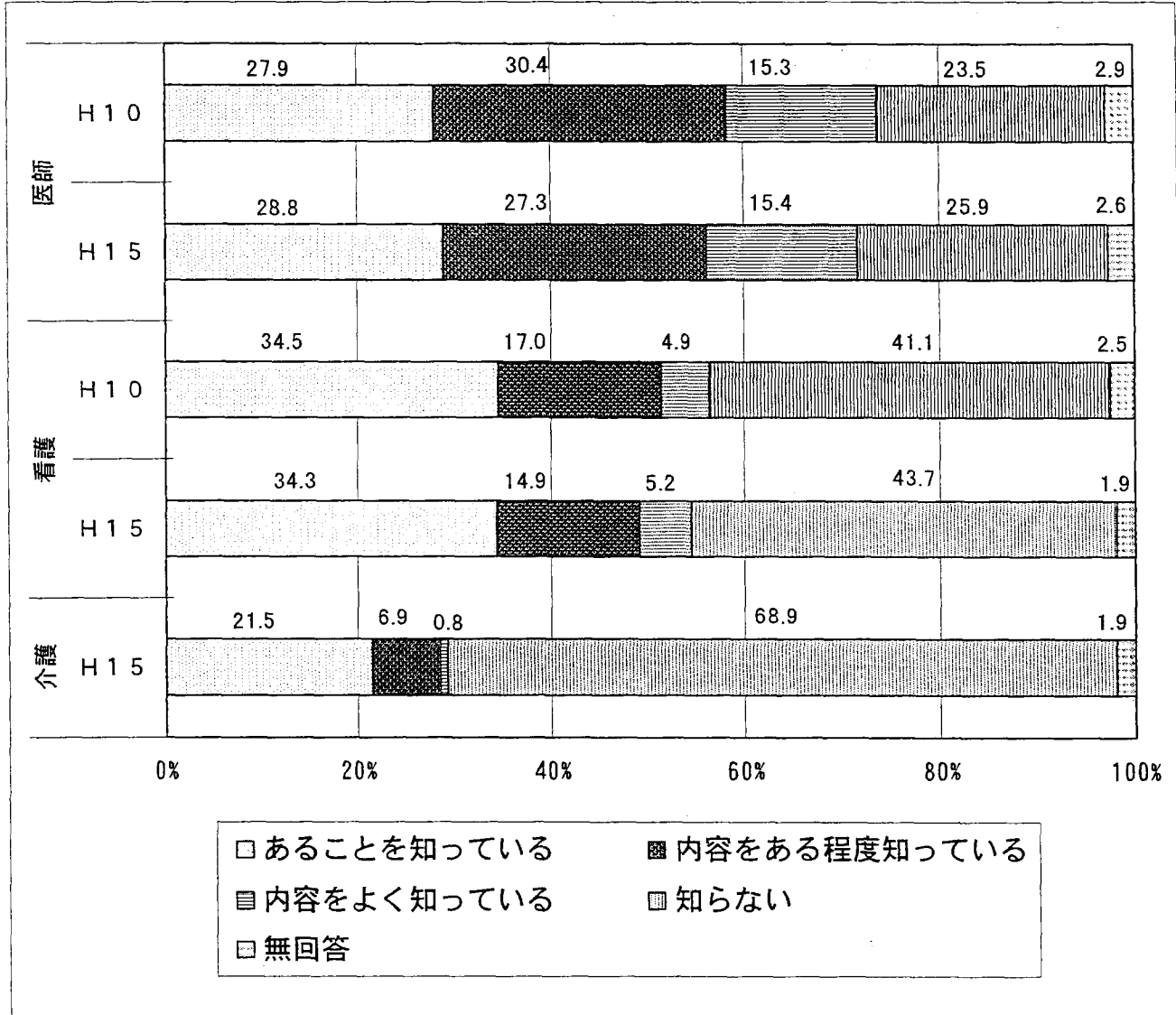


<(9) 癌疼痛治療法とその説明>

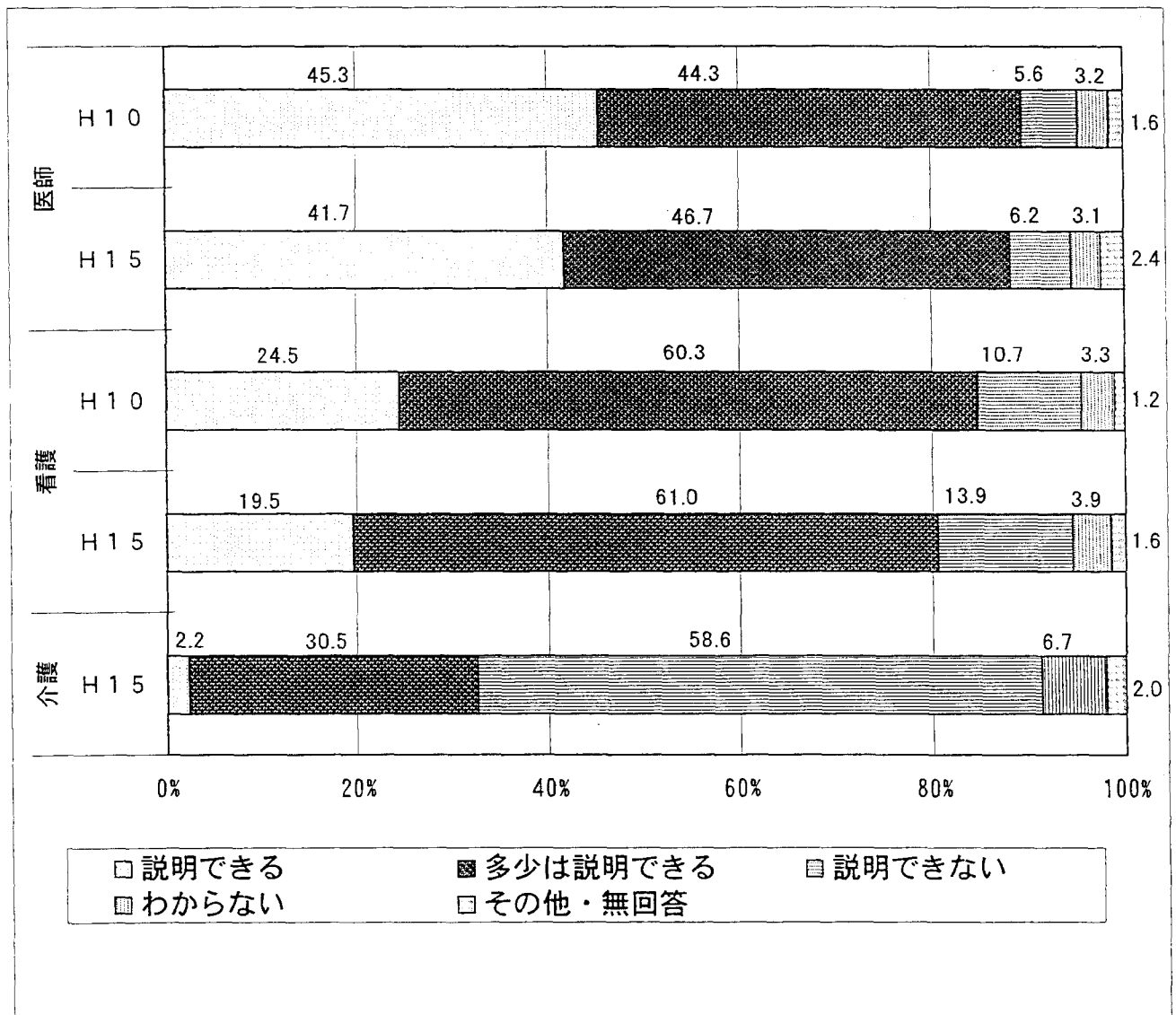
「WHO方式癌疼痛治療法」について「内容をよく知っている」「内容をある程度知っている」医師、看護職員は、前回調査時点と比べて減少しており（医 43% (46%)、看 20% (22%)、介 8%）、介護施設職員では、「(あることも) 知らない」者が 69%を占める。

あなたは世界保健機関（WHO）が作成した「WHO方式癌疼痛治療法」をご存じですか。（○は1つ）
問の番号 医師 9-1 看護 9-1 介護 9-1



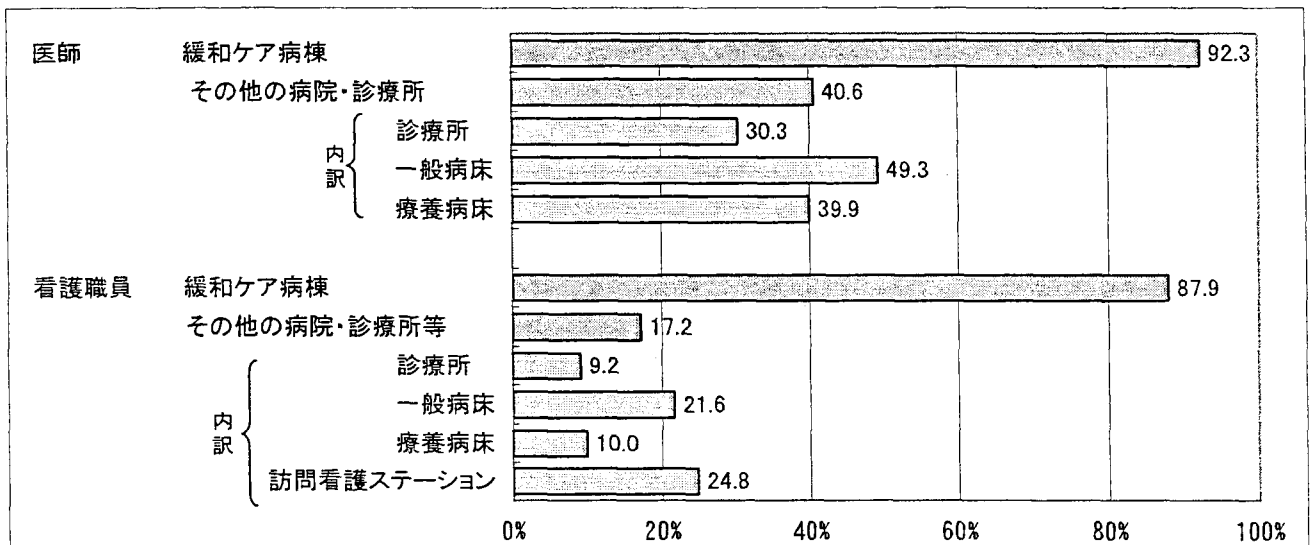
モルヒネの使用に当たって、有効性と副作用について患者にわかりやすく具体的に「説明できる」と回答した医師、看護職員は減少しており（医 42%（45%）、看 20%（25%）、介 2%）、介護施設職員では 59%が説明できないと回答している。

問 あなたは、モルヒネの使用にあたって、有効性と副作用について、患者にわかりやすく具体的に説明することができますか。お考えに近いものをお選びください。
 (○は1つ) 問の番号 医師9-2 看護9-2 介護9-2

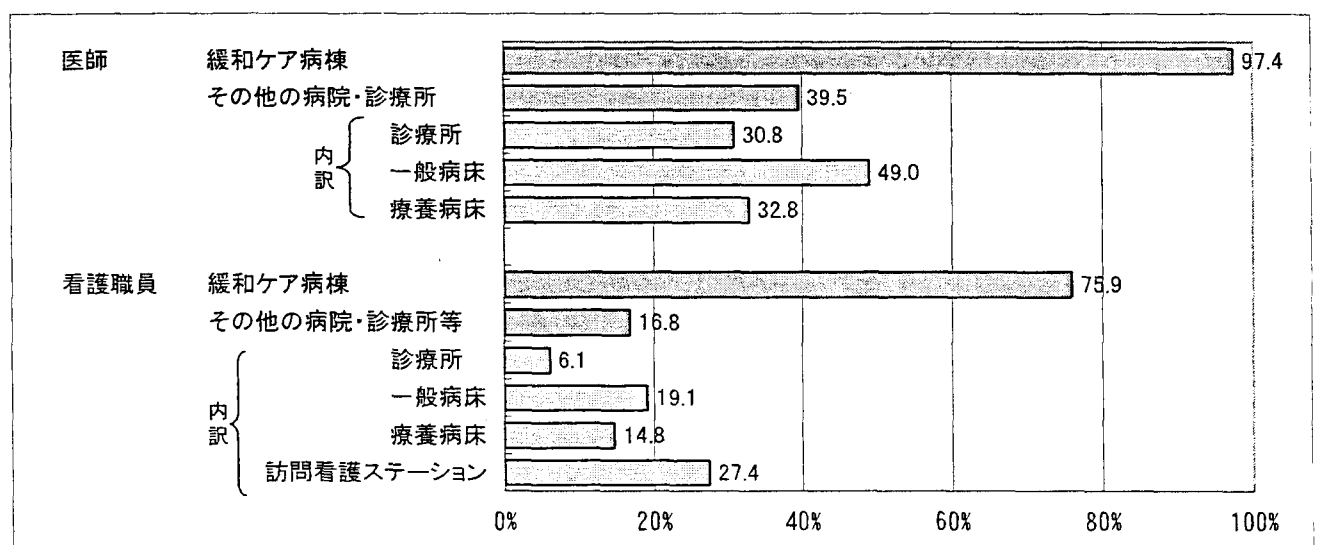


緩和ケア病棟においては、「WHO方式癌疼痛治療法」について、「内容をよく知っている」「内容をある程度知っている」医師、看護職員の割合（医 92%、看 88%）は、その他の病院・診療所等（医 41%、看 17%）に比べて多く、また、モルヒネの有効性と副作用について患者に分かりやすく具体的に「説明できる」医師、看護職員の割合（医 97%、看 76%）についても、その他の病院・診療所等（医 40%、看 17%）に比べて多くなっている。

「WHO方式癌疼痛治療法」について、「内容をよく知っている」「内容をある程度知っている」医師、看護職員の割合



モルヒネの有効性と副作用について患者に分かりやすく具体的に「説明できる」医師、看護職員の割合



注1) 「一般病床」には緩和ケア病棟が除かれている。「療養病床」には介護療養型医療施設が含まれている。
 注2) 本調査は、平成15年2～3月に実施した調査であるため、「一般病床」「療養病床」には現行医療法の「一般病床」「療養病床」だけではなく、当時の医療法の「その他の病床（結核病床、精神病床及び感染症病床以外の病床）」も含まれている。

<(10) 終末期医療体制の充実>

終末期医療の普及のために充実していくべき点について、医師では、「在宅終末期医療が行える体制づくり」をあげる者が最も多く、次いで「患者、家族への相談体制の充実」、「医師・看護師等医療従事者や、介護施設職員に対する、卒前・卒後教育や障害研修の充実」をあげる者が多い（各々63%（48%）、59%（54%）、54%（63%））。看護職員では「在宅終末期医療が行える体制づくり」をあげる者が最も多く、次いで「患者、家族への相談体制の充実」、「緩和ケア病棟の設置と拡充」をあげるものが多い（各々76%（57%）、70%（69%）、59%（65%））。介護施設職員では「入所者、家族への相談体制の充実」、次いで「在宅終末期医療が行える体制づくり」、「医師・看護師等医療従事者や、介護施設職員に対する、卒前・卒後教育や生涯研修の充実」をあげる者が多くなっている（各々73%、69%、53%）。

問 あなたは、終末期医療の普及に関し、どのようなことを充実していくべきだとお考えですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。（○はいくつでも）

問の番号 医師 18 看護 18 介護 18

